

平成21年5月20日

報道関係各位

株式会社 カネカ

還元型コエンザイム Q10 のパーキンソン病患者に対する臨床研究をスタート
— 順天堂大学医学部脳神経内科との共同臨床研究 —

株式会社カネカ(本社:大阪市、社長:菅原公一)は、順天堂大学医学部脳神経内科の服部信孝教授と共同で、還元型コエンザイム Q10 のパーキンソン病患者に対する臨床研究を本年4月よりスタートした。すでに米国では、酸化型コエンザイム Q10*がパーキンソン病の進行を遅延させることが報告されており、現在酸化型コエンザイム Q10 を用いた第Ⅲ相試験 (Phase3) が実施されている。

還元型コエンザイム Q10 は、空気中で簡単に酸化されるため、その製造には安定化技術の開発が不可欠であったが、当社は、世界に先駆けて還元型コエンザイム Q10 のバルク及びソフトカプセルにおける安定化技術の開発に成功した。還元型には、従来からの酸化型よりも幅広く優れた生理活性が期待できる。

順天堂大学医学部は日本のパーキンソン病研究の中心的な役割を果たしており、今般、世界で初めて還元型コエンザイム Q10 による臨床研究に着手することになる。パーキンソン病の初期および進行期の患者を対象として、パーキンソン病進行の遅延や治療薬剤による副作用の軽減などにつき治験を行う予定である。

以上

* 従来サプリメントで使われているコエンザイム Q10 は、空気中で安定な酸化型 (ユビキノン) であり、摂取した後、体内で還元酵素により還元型 (ユビキノール) に変換されて使われていた。ユビキノールは体のあらゆる臓器、細胞に存在し、細胞のミトコンドリアではエネルギー産生の重要な因子として働くことが明らかとなっている。最近の研究で、体内での還元能力は加齢、病気等の酸化ストレスにより低下することが立証された。還元型コエンザイム Q10 は、直接還元型として利用されることから、還元能力の低下した中高年、高齢者の健康維持への貢献が期待できる。

— <本件に関するお問い合わせ先> —

株式会社カネカ 広報室

TEL 06-6226-5019